



令和5年7月30日〔日〕開催

どうする! 八代市厚生会館 シンポジウム 第2弾

~みんなで考えたい未来とこの街~

レポート

令和5年6月11日(日)に開催した『壊さないで!“八代の至宝”八代市厚生会館 緊急シンポジウム』に続く、第2弾となるシンポジウムを開催しました。DOCOMOMO Japanより代表、副代表のおふたりによる基調講演と、パネルディスカッションでは4名のパネリストに登壇いただき、多岐に渡る視点から厚生会館を生かしたまちづくりについて、今の八代に風穴の開く提案がなされました。また、150名を超える参加者から多くのご意見・提案もあり、厚生会館存続への熱い思いがあふれたシンポジウムとなりました。

基調講演 I DOCOMOMO Japan 代表 渡邊研司氏



1961年福岡市生まれ。日本大学大学院理工学研究科修士課程修了。芦原建築設計研究所で公共施設及び都内事務所ビルの設計を担当。A A Graduate School留学後博士号。2011年より東海大学教授。著書『論文はデザインだ』『スケッチで学ぶ建築文化史』など。

八代市厚生会館の価値とは?

つながり=対話デザインを試みた建築家 芦原義信

◆家庭環境—【芸術と科学(医学)の対話】

大正7(1918)年7月7日、芦原義信は軍医の父と軍医総監藤田嗣章の娘の間に生まれる。兄は音楽・バレエ評論家の第一人者である芦原英了、母方の伯父に画家のレオナルド・フジタこと藤田嗣治、母方の従兄に劇作家の小山内薫。この環境が芦原の医学系と芸術系領域からの思考と国際性を育んだと言える。

◆留学研修と設計の実践—

【建築と街並みとの対話／理論と実践との対話】

ハーバード大学の大学院に入学(1957年~53年6月)。その後マルセル・ブロイヤー設計事務所で学習。ロックフェラー財団旅行奨学(1953年6月~10月)を受けて建築の研究のため、欧州各地を歴訪。パリにいる伯父・藤田嗣治の家にも2か月滞在。帰国後設計の「山崎邸」「新潟アメリカ文化センター」などに(厚生会館の本館や別館にも見られる)高さのレベルを微妙に変える「スキップフロア」という手法が見られる。

1956年10月に芦原義信建築設計研究所設立、1957~58年に文藝春秋の「日本の建築家20人」に選ばれる。1930年代から世界的に共同設計がはじまり、従来のように一人の設計家が全てを手掛けるのではなく、いろんなエンジニアと共同で作っていくスタイルがはじまり、芦原義信(意匠)、織本匠(構造)、犬塚恵三(設備)の三人がタッグを組んで最初に手掛けたのが「中央公論ビルディング(1960)」。これがいきなり日本建築学会賞を

取り、おそらくこの業績が厚生会館の設計者に選ばれる理由の一つと思われる。1961年、東京大学にて工学博士号取得。建築の外部空間の構成についての研究を行う。

◆理論(著作)と実践(設計)—

【理論と実の対話／記録としての著作】

芦原さんの素晴らしいところは自分の理論を必ずパブリッシング(出版)していること。それを実践・検証してフィードバックしていくところ。設計にあたって、“人間と人間の間のどのくらい”が「一番良い関係を築けるか」を科学的に研究して設計に生かした。コンクリートの目地や仕上げの粗さも緻密に計算されている。

◆実践事例—八代市厚生会館+DOCOMOMO選定建築物3件 茨城県文化センター

八代市厚生会館は「都市のコア」。外部空間の構成+設計。厚生会館は「モダニズムのすがすがしさ」がある建物。材料を素直にきちんと使って、ガラスを使って透明性を持った明るい空間になっている。目隠しなどをすると台無しになってしまう、非常に素晴らしい建築である。

◆芦原義信から学んだこと—

人間関係の大切さ／筆まめであること／いつもアンテナを張ること(視野を広げること)／仕事が終わったなら文化的余暇を楽しむこと／理論と実践の会話を継続すること／食事をきちんと摂ること

◆何故私が近代建築の保存に関わったのか?—

近代建築に対する共感(empathy)

3世代にわたる空間と時間(100年間)を考える~「今自分たちがあるのは誰のおかげ?」現役の文化遺産としての活用。「空間をつなぐ」から「時間をつなぐ。」へ。過去、現在、そして未来とのつながりが重要。



1957年名古屋市生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修了。三菱地所株式会社一級建築士事務所に勤務後、鹿児島大学建築学科教授を経て加世田麓重要伝統的建造物群保存地区で鯨坂建築研究所主宰。主な作品にシラスコンクリート住宅、衆議院議員会館など多数。

八代市厚生会館を使い続ける

◆鉄筋コンクリート構造の寿命—

鉄筋コンクリート寿命とされている「50年」は物理的な寿命ではなく、減価償却における法定耐用年数。鉄筋コンクリートは、空気中のCO₂によりコンクリート打設時アルカリ性だった組成が中性化していく。 $\text{Ca}(\text{OH})_2 + \text{CO}_2 \rightarrow \text{CaCO}_3 + \text{H}_2\text{O}$

中性化が鉄筋に達したときに、鉄筋が錆びる可能性が高くなる。これまで、中性化が鉄筋コンクリートの寿命と言われてきた（※厚生会館は劣化度調査の結果、「中性化度がほとんど0」であることが確認されています）。

◆鉄筋コンクリートの仕様書が改定—

コンクリートの中性化が鉄筋に到達する50年が法定耐用年数でも寿命と考えられてきた。しかし、近年の研究で中性化しても鉄筋コンクリートの耐久性には影響のないことが確認され、鉄筋コンクリートの技術基準であるJASSS（日本建築学会工事標準仕様書）の2022年版から、「耐久性を評価する際、中性化が鉄筋の位置まで進行するか否かで建築の寿命を判断していた。だが、鉄筋の位置まで中性化が進行しても、乾燥していれば鉄筋は錆びない」に改訂される。→水が入らないようにすれば、鉄筋コンクリート造はもっと持つと建築学会は改定したと理解してもらいたい。つまり、八代市厚生会館は「使える」ということ。

◆まだ使えるのになぜ壊すのか～経済優先の社会～

【理論と実の対話／記録としての著作】

2009年に耐震補強をしたのにも関わらず、八代市は文化コンベンションセンターを作ると2023年に発表したの（厚生会館は）閉めますと。改修費に20億かかると言われているけれど、「実際は7億で再開できる」との市民団体の試算があります。文化財（リビングヘリテージ※）として再開するべきではないか。

文化コンベンションセンターは厚生会館（4,000平米）でその倍以上の床面積、整備費が100億以上、維持費も厚生会館の倍以上となる可能性がある。経済界の八代商工会議所、市商工会、八代経済開発同友会、八代青年会議所の4団体が文化コンベンションセンター建設の要望書を出したと報道されているが、彼らが整備費、維持費を負担するのか？ 誰のために市は文化コンベンションセンターを建設したいのか？ 一部の経済と政治のため？ 耐震補強したまだ使える建物を壊し、新たな大規模施設を作るのか？ 環境負荷、維持管理費も今より増大する。また利用料も増大するのでは？ 市民に果たしてメリットがあるのか検証が必要。

◆環境負荷と解体・新築・維持—

地球温暖化防止やSDGsの観点からも、厚生会館は解体せず有効に利活用すべき。新たな施設を造るより地球環境の温暖化防止に貢献できる。ここ10年間で市区町村の97%で水害、土砂災害が起きている。八代でも令和2年に球磨川の水害が起きるなど、地球温暖化防止の観点は重要。

◆解体・再資源化でCO₂が発生する—

八代市厚生会館を解体するとコンクリート2,150m³、鉄筋約250tの廃棄物が生じる。建設廃棄物は建設リサイクル法により分別化して再資源化が義務付けられている。コンクリート塊、鉄くず、石膏ボード、プラスチック類、木、ガラス。分別化・再製品化・運搬等、解体・再資源化により多量のCO₂が発生。

◆建築の環境問題—

【CO₂排出量】 建築から生じるCO₂排出量の内、新築時と解体廃棄時のCO₂発生量は大きく、無視できない。また、40年、60年、80年間の建物使用期間で比較すると、年間の延べ床面積当たり二酸化炭素排出量は、長期間建物を利用したほうが小さくなる。

【新築時の素材採取と環境破壊】 自然界から供給されているコンクリートの骨材である川砂、海砂の採取可能な場所は、環境保護の観点から年々縮小している。

【解体時の廃棄物】 解体時は建設リサイクル法によりある程度再利用されるが、全てではなく、廃棄物がやはり生じている。既存建築を省エネ改修して使い続けることが、地球環境にとっていちばんやさしい方法である。

◆リビングヘリテージとして将来へ伝える—

全世界で建築物が「保存」「活用」されている。ここ（厚生会館がある場所）は凄い場所。周辺の建築群と連携した貴重な文化の発信地。〔芦原義信の八代市厚生会館（1962）、伊藤豊雄の八代市立博物館未来の森ミュージアム（1991）、熊本景観賞、毎日芸術賞、第34回建築業協会賞（BCS賞）、公共建築100選（建設省50周年記念）、平田晃久の八代市民俗伝統芸能伝承館お祭りでんでん館+松濱軒、八代城跡〕

八代市厚生会館は、「時間をかけて皆で検討して活用して次の世代に伝えて行くべき文化財」である。

◆文化財制度がどうなっているか—

近現代建造物緊急重点調査事業は、年間2件程度のペースで行われている。文化財登録の要件から、間違いなく築50年以上である厚生会館は文化財登録となる。今、厚生会館を壊してしまうと、江戸時代の国の名勝からの建造物が残っている貴重なエリアから、我々の生きた昭和のものが無くなってしまふ。伊東さんの（博物館）が平成、平田さんの（伝承館）が令和、時代ごとに文化財が残っていく、我々の記録として街が残っていく、そういった意味でも厚生会館を壊してしまうと非常に残念な結果となってしまう。芦原さんの厚生会館、平田さんの伝承館、伊東さんの博物館、こんなところは全国に滅多にない。後ろ側には松濱軒、これは本当に素晴らしいところ。

◆鉄筋コンクリート建造物の再生事例—

厚生会館もホールとして難しければ展示スペースとして使える。市がどうしてもホールを別に作るのなら、どうしても残してもらいたい建物のひとつである。

八代市は2,000人規模の新コンベンションセンターを作るといっている。100億～200億整備費がかかっても、半額補助があると。しかし、国の税金も我々が払っているわけで、できれば文化財、まちづくり関連の補助金で厚生会館を使い続けてもらいたい。厚生会館の条例を廃止したということだが、鉄筋コンクリート建造物は維持管理費は（閉館していても）かからないので、ぜひ時間をかけて議論して検討してもらいたい。



韓国・大邱生まれ。ソウル市立大学卒。東京大学大学院にて博士号取得。2012年より神奈川大学にて助手・助教を務め、2017年より熊本県立大学環境共生学部准教授。熊本まちなみトラスト副理事長、熊本市景観審議会委員、熊本市歴史まちづくり協議会委員、熊本県建築審査会委員。

八代厚生会館を中心とした都市デザインの提案

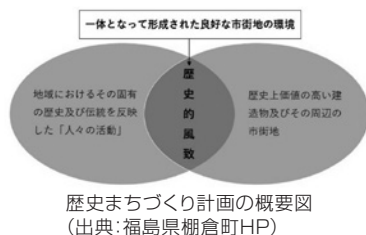
◆八代旧市街地の魅力—

建築を勉強している人にとって、八代旧市街地は、とにかく「萌える」場所です。江戸時代につくられた国史跡の八代城や国名勝の松浜軒、武家屋敷の澤井家住宅をはじめ、明治時代の松井神社、戦後の八代市厚生会館、市立博物館、お祭りでんでん館と、**建築博物館とも言えるほど、時代ごとの代表作が残っている**からです。また、**八代旧市街地には、市民や住民にとっても豊かな公共的空間が集まっています。**

八代城石垣や堀、広い空を見渡しながら、ゆっくり散歩できずし、博物館や図書館、厚生会館などの文化施設や寺社仏閣で文化歴史に触れることもできます。江戸時代から町ごとに行われてきた妙見祭も今だに続いています。このように、**旧市街地に文化、歴史、自然すべてが凝縮されている都市は、意外と少ない**と思います。八代を訪れる人たちに堂々と見せたい、八代の顔とも言える魅力的なエリアです。



八代旧市街地の風景



◆歴史文化を活かしたまちづくり制度—

このような豊かな旧市街地の空間と営みを活かしていくには、まちづくり制度と官民連携の体制が必須になります。

まず、まちづくり制度として、八代旧市街地に適用できそうなのが、**歴史的風致維持向上計画(以下、歴史まちづくり計画と省略)**という制度です。当制度の趣旨は、**地域固有の歴史的な活動と歴史上価値の高い建造物やまちなみの両方を合わせて、保全活用しようとする**ことです。ですので、戦後の建物もその対象になります。条件としては、国指定文化財があることです。

八代旧市街地を見ますと、国史跡の八代城や国名勝の松浜軒があり、武家屋敷の澤井家住宅や妙見祭があるので、きれいに歴史まちづくり計画の対象に当てはまります。特に、妙見祭の祭礼行列は、八代固有の伝統的活動であり、その舞台となるまちなみとともに守っていくことは、歴史まちづくり計画の柱となるはずで。さらに妙見祭は、祭りの関係者をまちづくりに引き込む重要な要素です。一方、建築的に見ると、時代ごとの代表作とも言える八代市厚生会館と市立博物館も重要な保全活用の対象になります。新八代駅などいくつかの拠点に機能を集約していくコンパクトシティ関連の制度とは異なりますので、並行して使用することができます。

東北の弘前市の事例を見てみましょう。弘前では2010年に歴史まちづくり計画を取り入れていまして、弘前城や町屋など江戸・明治・大正時代の歴史的価値の高い建物だけでなく、前川國男という巨匠建築家によって建てられた市民会館(1964年竣工)や弘前市庁舎(1958年竣工)という戦後の建物も歴史的風致形成建造物の対象になりました。すなわち、弘前市の歴史まち

づくり政策の一環として、改修補助も行われています。改修補助のもと、市民会館は2014年にリニューアルオープンしましたし、市庁舎は2017年に改修工事が終わり、使い続けられています。一方、弘前市では、コンパクトシティの制度である立地適正化計画も別途定められていまして、歴史まちづくり計画とコンパクトシティ制度は並立して位置づけられていることが確認できます。



弘前市民会館
(出典：HIROSAKI Heritage HP)



弘前市庁舎
(出典：HIROSAKI Heritage HP)

◆官民連携の体制—

実は、残すことも大切ですが、いくら残したとしても、使わないかぎり、残した意味はないと思います。世界一人口が減ったり、高齢化している日本においては、官民連携による取り組みが必須になっています。そこで、参考になる事例を紹介します。

韓国・群山という地方都市には、近代建築の世界的な巨匠であるル・コルビジェのところで修行していた金重業(キム・ジュンオプ)氏の代表作である市民文化会館(1989年竣工)が、2011年より9年間使われないうままありました。最初、群山市では民間などに売却しようとしたのですが、売却されず残ってしまいました。

そこで、建物の可能性を高く見た国立都市空間研究所の尹ジュソンさんたちにより、2020年に民間の力を活かした場づくりの社会実験が行われます。さらに、官民連携の体制を視野に入れながら、競技式のプロセスを経て、2021年に委託運営企業が選ばれました。今は、市民参加型の文化芸術空間に生まれ変わっている最中です。行政のみだと、運営管理費を稼ぎながら、公共的利用を促すことは非常に困難です。民間によるビジネス的発想と能力を存分に活かしながら、行政によるエリアデザインや補助金を、呼び水となるバックグラウンドとして両立させることが大切になります。



群山市市民会館の社会実験の様子1
(出典：<https://brunch.co.kr/>)



群山市市民会館の社会実験の様子2
(出典：<https://www.facebook.com/Sleeping.Giant.Gwangju/>)

◆おわりに—

個人の取り組みだけでは、文化を生み出せません。市民一人ひとりと、そして行政、企業もかかわるムーブメントにならないと、文化は残らないし、創り出すことはできません。



講演 『やつしろ子ども劇場』事務局長 丁畑幸美氏



福岡県生まれ。1982年より八代市在住。1985年より『やつしろ子ども劇場』の事務局長を約40年務め、『あったかハートふれあい劇団』事務局、『八代の子どもの生活と文化を考える会』では「子どもの生活文化を向上させる」ことを目的とし、子どもを通して現実の目の前にある問題に向き合い続けている。

芸術・文化を学ぶ場としての厚生会館

◆「やつしろ子ども劇場」の誕生と厚生会館一

私は、子どものための舞台公演を届ける仕事、「やつしろ子ども劇場」で40年間事務局をしてまいりました。また、市民ミュージカル劇団の事務局庶務係として30年間、制作舞台劇の発表公演に参加して来ました。八代の町で文化活動が継続してできたのは、文化愛好家の仲間や応援してくださる市民と、**八代には立派なホールの八代市厚生会館があったから**です。

子ども劇場は、八代市厚生会館設立から10年後の1972年に誕生しました。当時は高度経済成長期で、子どものあそびと文化生活と文化の転換期でマスコミ文化の反転の中で、優れた文化芸術体験の機会が減少し、子どもの心の荒れを心配した人たちが、子どもにこそ文化芸術に触れ、豊かな成長を願う思いで子ども劇場が始まりました。

生きる喜びや意欲を生み出す感動体験や多様な価値観を与える文化の必要性を、そして優れた芸術文化を選ぶ力を育てる必要性を感じたからです。なおかつ、**八代の中心地には文化の殿堂・八代市厚生会館が建ち、大人も子どもも市民が集えるホールがあります。**

幼児期から思春期までの子どもの心を育むことを大切に活動しています。多様なジャンル(音楽・舞台劇・人形劇・能・狂言・バレエ・海外の団体の作品等)の公演を50年間で300回以上鑑賞しました。その内、200回近くの公演を八代市厚生会館で鑑賞しました。**多様な内容の公演に対応できる舞台機構と鑑賞しやすいホール客席の作りは、特に幼い子ども達が歩けるスロープ通路があり、安心して楽しめる会場**であることでした。また、主催者を支えてくださるホール職員の助言やご協力がありました。

鑑賞の日は、子どもたちにとって**晴れの日**であり、ホール空間で美しい音楽やお芝居の世界をワクワク・ドキドキ楽しみ、子ども達の感性を育んできたと自負します。また、会館に足を運び、友達や家族と一緒に鑑賞して、感動を共有し、泣いたり笑ったり、応援したり、**観劇のマナーを身に付けて**、子ども達は観劇の後にはすぐにアンケートや感想や絵を書いてくれます。心に感じたことを文字や絵で表現することがとても上手です。子どもたちのメッセージからたくさんエネルギーをもらいます。**この子どもたちは、大人になり文化を愛する豊かな心の持**



厚生会館で開催された、手話「ふれあい」やつしろの様子 (昭和63年夏)

ち主に成長したと感じています。

さて、50年目を迎えた昨年は、50周年記念事業・大型人形劇『オズのまほうつかい』を桜十字ホールやつしろとの共催で実施しました。豪雨災害支援として坂本町八竜小学校の皆さんを、50年の感謝を込めてご招待させていただきました。次の60周年記念事業は重厚なホール空間の八代市厚生会館でぜひ多くの市民の方と鑑賞会を催したいと望んでいます。

◆「あったかハートふれあい劇団」について一

市民ミュージカル劇団『あったかハートふれあい劇団』の活動をお伝えします。同劇団は、八代市民の小学生から大人までが一緒に演劇をする市民劇団です。特に八代の町や歴史をテーマに作品作りをすることで、郷土愛や未来への夢や希望を育むことを目的に稽古を始めました。八代市厚生会館30周年の年、1993年に第一回作品『わが町八代』公演をしました。それから今日まで、26回公演のうち15作品を八代市厚生会館で上演しています。

最後に、20年前、高校卒業後に劇団へ入団した石本愛さんの想いを紹介します。

◆石本愛さんの想い一

「私は、あったかハートふれあい劇団に所属して、普段の生活では得ることのない貴重な経験をさせていただきました。自分に自信がなかった性格が、劇団活動を通して、自己表現をし、団員との関わりの中で、コミュニケーション能力も向上していきました。

年齢も学校も職場も違う団員たちが、公演を成功させるという同じ目標の元、半年間稽古に励みます。その集大成の場所が八代市厚生会館でした。初めて団員として舞台上上がったときの張りつめた緊張感と感動は今でも忘れません。厚生会館は、多くの団員たちの思い出が詰まった特別な場所です。

改修工事を終えて、厚生会館で劇団30周年公演をすることを目標としていました。その日を待ちわびていた私たちにとって、厚生会館の廃止は納得いきません。厚生会館はまわりを八代城跡、松濱軒、図書館、博物館に囲まれ、文化の拠点ともいえる素晴らしい場所です。厚生会館を継続させるには多額の資金が必要となりますが、それだけの価値があることを知っていただきたいです。改修工事をしても20年しか持たないといわれますが、壊してしまえば何も得ることはできなくなります。

八代市民が身近に文化を感じ、表現し、生きがいを得ていた場所を、どうか壊さないでください。八代市民の文化活動向上のために、厚生会館を復活させてください。再開を心待ちにしている八代市民の声が届くことを熱望します。」



やつしろ子ども劇場とあったかハートふれあい劇団のチラシ



1979年八代市妙見町の宗覚寺に生まれる。八代高専卒業後上京、フリーターから僧侶に。日蓮宗宗務院現代宗教研究所勤務を経て、10年前にUターン。八代在住。宗覚寺を手伝いつつ、東京在住の兄らとFestival de FRUE(掛川市つま恋:2017~)、FESTIVAL FRUEZINHO(立川市&全国各地:2022~)などを毎年開催。

音楽フェス会場にふさわしい町になり得る八代

◆音楽イベントの実績紹介ー

私は八代市に在住していますが、兄が東京で音楽イベントをやっている、Festival de FRUE(掛川市つま恋:2017~)、FESTIVAL FRUEZINHO(立川市&全国各地:2022~)などを毎年開催しています。また八代で、チケット販売・発送、ホームページ制作、九州内各地での公演制作やコーディネートなどを担当しています。

私達が今までに招聘したアーティストは、

- ジャジーカ(モロッコ)
 - エルメート・パスコアル(ブラジル)
 - トン・ゼー(ブラジル)
 - ブルーノ・ペルナーダス(ポルトガル)
 - ジョン・メデスキ(アメリカ)
 - ピノ・パラディーノ(アメリカ)
 - 坂本慎太郎、折坂悠太、鈴木慶一(日本)
- など、海外アーティストを招聘することが多いです。

私が今まで九州内で関わった公演は、

- ジョン・メデスキ(熊本)
- ニュー・ザイオン・トリオ(山鹿)
- エルメート・パスコアル(八代)
- ティグラン・ハマシアン(佐賀)
- ピノ・パラディーノ(福岡)
- 坂本慎太郎(八代)
- アマーロ・フレイタス、サム・グンデル、バーラ・デゼージョ(福岡) など

私達だけでなく、最近の会場選びは、お寺、教会、古民家、芝居小屋、キャバレー、ホテル、船舶などを使用することも増えています。音楽フェスについては、大自然の中から、都市型フェス、もしくは都市から近い会場に移行している傾向があります。

私が近年、制作補助をしたライブ・イベントは、

- 2018年
「エルメート・パスコアル」八代ハーモニーホール(500人)
 - 2019年
「エルメート・パスコアル」八代ハーモニーホール(400人)
 - 2022年
「ピノ・パラディーノ」福岡市立西市民センター(800人)
 - 2022年
「坂本慎太郎 キャバレーニュー白馬(300人)
 - 2023年
「アマーロ・フレイタス/サム・グンデル/バーラ・デゼージョ」福岡市民会館(500人)
- などです。

九州内で開催したイベントでは、八代は九州の中心でアクセスも良いからと考えていましたし、九州内各地から多くの来客がありました。東京・大阪・福岡からも多かったです。

今年、福岡に会場を移してみてもびっくりしたのが、中四国・山陰・神戸・大阪・京都などからチケットの購入があったことです。西を見ると、韓国までが圏内に入っています。

福岡は土地の持つポテンシャルが八代とは格段に違いました。八代で公演を行うメリットが感じられませんでした。数千人規模の会場が八代にあったとしても、よほど特徴がある会場でない、八代を選択する理由がありません。

◆厚生会館ホール再開後の八代市の可能性ー

そこで、「厚生会館があるならば」と仮定して、八代で都市型フェス開催の可能性を考えてみました。

- ◎厚生会館:1,000席
- ◎白馬:300席
- ◎ハーモニーホール:500席
- ◎厚生会館前広場/八代城址/ハーモニーホールの広場で
のマーケット:数10店舗~数100店舗

ちょうど良い規模の回遊型都市型フェスが開催できそうな気がしませんか。夜は本町へ、宿は市内のホテルへ。ちなみに、フジロックの会場はキャンプサイトから端のステージまで約4kmあります。八代で4kmというと、ハの字広場から厚生会館までです。

行政・三セク・民間・クリエイター・アーティストが組んで始めた、全国でも稀な都市型音楽フェスとして最近話題になっているのが、福井城址横の福井中央公園にて2019年から開催されているワンパークフェスです。キャンプインはできず、来場者はホテルなどに宿泊します。2日間とも夜9時頃には終了し、来場者もスタッフも夜の街へ繰り出していきます。

その経済波及効果は、

●2019年→来場者延べ10,000人▶6億円

●2022年→来場者延べ8,000人▶8億円

と発表されています。

八代でフェスを開催した場合、もう少し規模は小さくなると思いますが、厚生会館の改修費が20億円だったとしても、高くないような気がしませんか。

何年も続くフェスやライブには、以下のような特徴があります。
特徴あるハコ/特徴あるマチ/特徴あるヒト/交通の便が良い/裏方スタッフが行きたい要因がある/熱心な地元スタッフ/人のつながり など。

特徴あるホールとして、長崎市のチトセピアホールがあります。2015年に出口亮太さんが館長に就任してから、予算ゼロで自主事業を行っています。「企画の同時代性」「空間の有効活用」「持続可能な収支計画」「公共の理念の更新」の4本柱を元に、ホールの新しい活用法を提案し続けています。

小さなハコだからこそ可能な「規模の小ささを活かした機動性」と「地域に調和し持続可能な事業体制」があります。館長さん次第で、田舎の小さなホールでもこれだけやれるのだという好例です。

音楽フェスやイベントホールが乱立する中で、ホールを維持していくことは大変だと思いますが、少しでもその希望になればと、いくつかの例を挙げさせていただきました。



会場の桜十字ホールやつしろ3階会議室

令和5年9月3日[日] 14:00~16:30

会場:桜十字ホールやつしろ 3階会議室 参加者数:150名

知りたい! 言いたい! 本当のこと 八代市厚生会館をみんなで語る会

～みんなで語ろう! 厚生会館と八代の未来～

レポート

「どうする! 八代市厚生会館シンポジウム」の開催で、多くの方からの意見や思いが時間内に収まらなかったことを受け、今回は「語る会」と題し、厚生会館問題について参加者の皆様が思う存分に語れる場を設けようという目的で開催しました。前半では、当会より西山英夫による開会挨拶、同じく笠井麻衣による「『厚生会館問題』の基礎知識」の発表、江崎博美による「八代市厚生会館のホール再開を求める会 これまでの活動報告」の発表を行いました。後半は、「みんなで語ろう 厚生会館と八代の未来」と題し、来場者の皆様によるフリーディスカッションを実施。多くの参加者の皆様から、それぞれの立場より大変有意義な意見や提案が飛び交いました。最後に『熊本まちなみトラスト』の富士川一裕事務局長による本日のまとめ、当会共同代表の磯田節子による謝辞で締めくくられました。



西山「八代のこの街の精神をもう一度再生させて次の世代にバトンを渡すことが、今の私たちの責任ではないでしょうか。多くの市民の力、情熱にかかっています」



笠井「厚生会館は公演計画を工夫することでランニングコストを回収できる規模と質を備えたホール。厚生会館の改修費と文化コンベンションセンター整備計画とを比較して、どちらが『将来世代への負の遺産』を残さないことになるのでしょうか。私たちの誇りや宝を未来に残したい」



江崎「厚生会館の本当のことを知らない人はまだ大勢います。一人ひとりができることにまずは取り組み、アクションを起こすことが大切。市民一丸となり、風向きを変えていきましょう」



富士川「ここに集まった方々からいろいろなご意見があった。八代の将来を左右するような人たちです。(存続・利活用に)賛成、反対をこの会に預けることなくやっていってほしい」



磯田「厚生会館条例が廃止になったことで逆に厚生会館を誰かが購入して利活用することもあります。いろいろな提案を出し合って話し合い、皆さん一緒に動きましょう」

◆アンケート 集計結果

シンポジウム第2弾への参加者に、アンケートへのご協力をお願いしました。

質問項目は、「Q1. 八代市厚生会館について、あなたの思い出を教えてください」、「Q2. 閉鎖が発表された厚生会館の現状について、あなたの思いをお書きください」、「Q3. 当会では、これまで厚生会館で公演されたものの写真を集めております。(今後、思い出パネル展、冊子を制作予定)もし、お持ちの方がおられましたらお知らせください」の3つです(他に名前、年齢、居住地の記入欄と、お名前を公表してもよいかどうかを確認する質問あり)。

Q2. 閉鎖が発表された厚生会館の現状について、 あなたの思いをお書きください。

◆必要を願う市民に、ぜひ予算を付けてほしい。八代文化向上のため。八代市に似合った建設物で、市民が集いやすい地域である。最適の場所である。(80代、市内)

◆いいものは大切に、文化が育たないところは街も育たない、と聞いたことがあります。八代市は周辺の街に負けない街として、復旧していくためにも残すべきだと思います。(70代、市内)

◆何とすばらしい場所に厚生会館はあるのでしょうか。本当の中心部にあることで、ぜひ残してほしいです。(80代、市内)

◆他に良い会館ができたとしても、厚生会館ほど良い会館はないと思います。どうして、いたんだ所を修理して蘇らせるってことができないのですか。本当にもったいない。(70代、市内)

◆とても残念な思いです。これからの未来の子どもたちの、文化に触れる機会が少なくなります。(70代、市内)

◆偶然、FMやつしろで、厚生会館が解体の危機にあり、しかも国際的に著名な音楽家の方が「東京、大阪、八代の音響が素晴らしい」と発言されたと知って、厚生会館がどんなに貴重な建物で唯一無二の八代になくてはならない存在であるかに気付かされました。また、広報やつしろ6月号の記事を読み、新八代駅周辺の開発に関する詳しい数字を出すに、厚生会館のことだけを一方的に取り上げる手法に違和感を覚えると同時に不信感を抱きました。国内外の情勢や景気を考えれば、新しいものを作るより、現在あるものを補修し、皆で知恵を出し合って大切に使うっていいのではないかな。解体してしまえば、二度と取り戻せない素晴らしい建物であることを、市長に理解を求め、建物の存続をお願いしたい気持ちでいっぱいです。開館落成時の当時の市長の録音テープを中村市長はぜひ聞かねば。熊本市からシンポジウム参加者の方も、同じことをおっしゃっていました。また、熊本城で吉永小百合さんの朗読と坂本龍一さんの音楽会があったそうですが、音響が良くなかったそうです。(――、市内)

◆でんでん館を作るために閉館し、でんでん館ができれば、再開されると思っていました。なのに、突然の厚生会館再開中止の連絡。熊本地震後の耐震対策もちゃんとなされたと聞いています。確かに座席は少々狭いですが、音響や舞台装置等は素晴らしいと聞いています。まだ使えるものだから、私も残してほしいと思います。壊してしまったら、もう元通りにはなりません。山鹿市の八千代座も、古い施設ですが、手を入れて現在も利用されています。(60代、市内)

◆今回初めてこのような学習会に参加し、厚生会館の使用

可能な事実にはびくっています。事実を知らないことを反省。使えないため、とだけ聞いていたのです。(60代、市内)

◆市報の予算(改修費)を見て、正直、驚きましたが、本日参加して正しい予算(改修費)を知り、この最低限度の維持管理費用で維持していただきたいです。市役所を建て替えたばかりで、一カ所の建築費(解体費)ばかりに税金を使われるのはどうかと思います。もっと他に予算の使い道があると思います。松浜軒の塀など、どうしても解体しなければ隣の家屋が危険な民家もたくさんあります。空き家問題としても予算がかかりますので、全体を見て分散してほしいです。きれいな街並みにも予算を欲しいと思います。(50代、市内)

◆別館を解体し、でんでん館を造られたとのことですが、再開するために多額の費用がかかることは分かりますが、自治体が行う文化事業に費用対効果を求めることはないと思います。(60代、市内)

◆なぜ解体か、疑問。国内でも昭和の建物が文化財になりつつある。海外でも100年の建物が改修されて存在します。建物としてではなく、「文化」として残す建物では？金のかけどころで、今回は無駄でも、必要では？文化と金の対比は難しい。(60代、市内)

◆現在、この内容のものを作るとしたら、かなりの予算がかかると思います。音響ひとつにしても、なかなかできないと思います。年数が経っても、使える良いものは大事にしてほしい。少数派の意見を大切に。納得のできる決め方をしていただきたい。議会の多数決で決めることに寂しい気持ちでいっぱいです。(60代、八代市外)

◆知人より、音響の素晴らしさや能舞台の話聞き、いろいろな話も聞きたいと思い、参加。建物としてどう再生できるか、利用の仕方等、気になる。ただ残すだけなら、維持費等、市民の負担になるのかも。(60代、市内)

◆改修に20億円かかったとしても、新たに建てる、もっとかかる。八代市は伝統的に、古い遺構を大切に改修・保存を重視して、市外の人や若い人に伝える姿勢が弱い。理由は、古いものを壊せば、誰が得をするかを考えればよい。土木建築業及びその関連業者である。彼らを支援して何らかの利得がある議員が政策を誘導するからである。松浜軒の長塀が老朽化したのは、何十年前からだ。壊れる寸前まで放置していたのは、象徴的なことである。きっと土木建築業者、議員にとって、少額の工事は目じゃないのだろう。(70代、市内)

◆八代市に、①撤去理由の詳細 ②撤去工費の詳細、を全市民に周知してほしい。(80代、市内)

◆八代市議会の動き

安易なハコモノ依存、スクラップ&ビルドは、市の財政を圧迫し住民サービスの低下につながります。厚生会館を設置する条例を廃止する採決の賛否について、私たちは議員の姿勢をしっかりと注視し、記憶していきます。

■7月19日議会 経済企業委員会「厚生会館廃止条例」採決

廃止条例賛成

廃止条例反対

委員長 増田 一喜

委員長採決
「廃止条例」可決

委員 堀口 晃(無所属)

委員 野崎 伸也(無所属)

委員 百田 隆(自民党系無所属)

委員 橋本 隆一(公明党)

委員 成松 由紀夫(自民党)

委員 北園 武弘(自民党)

反対 3

VS

賛成 3

■7月25日議会最終日の本会議にて起立採決 → 17人の賛成多数で「可決」

廃止「反対」

山本 敬晃
山本 幸廣
百田 隆
堀口 晃
大倉 裕一
野崎 伸也
橋本 徳一郎
中山 諭扶哉
谷口 徹

廃止「賛成」

成松 由紀夫
※議長(当時)なので採決には参加していないが、経済企業委員会の委員として「廃止」に賛成

太田 広則
橋本 隆一
橋本 幸一
金子 昌平
友枝 和也
谷川 登
上村 哲三
高山 正夫
古嶋 律義
堀 徹男
木村 博幸

中村 和美
村川 清則
増田 一喜
北園 武弘
橋本 貴喜
田方 芳信



◆「八代市厚生会館のホール再開を求める会」の支援金口座を開設しました。

当会の活動費(印刷物作成費用、イベント開催運営費用他)はすべて実費として発生するものに充てられます。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

支援金振込先

熊本銀行 八代支店(店番 201)
口座番号：普通 3161934
名義：八代市厚生会館の
ホール再開を求める会

LINE公式アカウントが
できました!



当会より活動の進捗等の情報を発信します。ぜひご登録ください。

◆署名活動へのご協力をお願いします!

令和4年5月に提出した「八代市厚生会館のホール再開を求める署名」は、10,374筆でした。その後、9月27日に235筆を提出、合計10,609筆が市に渡っている現状です。しかし、現在も署名活動は継続しており、さらに多くの署名を提出していこうと考えています。まだ署名をされていない方、厚生会館問題についてご存じではない方にこの現状を伝え広めていきたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

★署名用紙や厚生会館問題の関連資料は珈琲店ミックにも常時設置していますので、ご自由にお持ちください。また、署名用紙は珈琲店ミックでも集約しております。(募金箱もあります)

〒866-0831
熊本県八代市萩原町1丁目2-7
珈琲店ミック

『八代市厚生会館のホール再開を求める会』通信
vol.04

2023年11月15日発行

八代市厚生会館のホール再開を求める会
お問合せ／080-2747-1838
hallsaikai@gmail.com